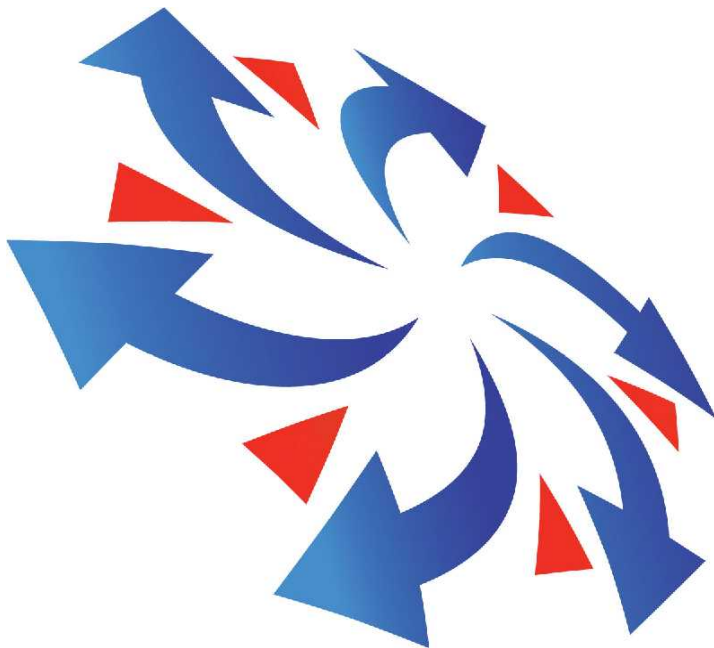


2014年夏「効果の上がる学習方法」とは
—学力を身に付けて多様な選択肢のある人生を歩もう—



開倫塾
塾長 林 明夫

—皆様へ—

「効果の上がる学習とは何か」について、お読みになりやすいように Q and A の形でまとめてみました。どうか、ゆっくりと何回かお読みになり、参考になるとお考えになったことからすぐにでもやってみてください。Q は全部で 30 あります。30 の Q の 1 つ 1 つの上に、その内容をまとめた「題」をつけながら、また、大切と思われるところに線を引しながら御熟読ください。ただ読むよりは、とてもよくわかり、また身に着くと思います。

林明夫

Q 1 : 効果の上がる学習の秘訣とは何ですか。

A : (1) 大切なことは 3 つあります。その第 1 は、「自覚をもって学習」することです。第 2 は、「学習時間を確保」することです。第 3 は、「学習方法を工夫」することです。

(2) 図で表すと、次のような掛け算になります。

「学習の成果」＝「自覚をもって学習すること」×「学習時間を確保すること」×「学習方法を工夫すること」

(3) 「学習の成果」は、「自覚」と「学習時間」と「学習方法」の掛け算によって決定されるというのが私の考えです。

(4) この(3)の中で一番大切なのが「自覚をもって学習すること」です。なぜなら、「自覚」をもてばもつほど「学習時間」を確保する工夫をしますし、「学習方法」を工夫するようになるからです。



(5) 「自覚」が不足すると、「学習時間」は少なく、「学習方法」もダラダラと机に向かうだけとなるために、「学習効果」は限りなく「ゼロ」になるからです。

Q 2 : 「効果の上がる学習の秘訣」の最初の「自覚をもって学習する」とは、どういうことですか。

A : (1) 岩波書店刊の「こうじえん広辞苑」によると、「自覚」とは…。

① ⑦ 自分のあり方をわきまえること。

自己自身の置かれている一定の状況を媒介として、そこにおける自己の位置・能力・価値・義務・使命などを知ること。「勉強不足を自覚する」

① 自分で感じとること



②「仏」自ら悟りを開くこと ⇔ 覚他

(2)「自覚」とは、「今、自分でしなければならないことをよく知ること」だと私は考えます。

(3)「自覚をもって学習する」とは、中学生は中学生として、高校生は高校生として、今何をしなければならないかを自分の力でよく考え、よく知った上で学習することです。



Q3 : どうしたら「自覚をもって学習する」ことができますか。

A : (1)「今、何のために学習するのかを自分の力でよく考えること、よく考えた上でしっかりと意識すること」です。あとでもお話しますが、特に入学試験を半年後に控えた私立中学校の受験生、公立中高一貫校の受験生、高校の受験生、大学の受験生は、「自分は半年後に受験を控えた受験生である」という自覚を1日も早くもって「学習」することが極めて大切です。

(2)できれば、自分はどのような一生が送りたいのか、どのような人生が送りたいのか、社会に出てどのような社会的な活動がしたいのかなど、「自分の人生」「人生の目的」を自分の力で考える。

(3)その自分の人生の目的を達成するためにはどうしたらよいか、そのために高校や大学、短期大学、専門学校、大学院などはどこに進学したらよいか、どのような社会的な活動をしたらよいか、自分の生きる意味、自分の社会的使命とは何かを自分の力で考える。

(4)そうすると、今、学校で学んでいる意味、何のために学習するのかが少しずつわかってきて、「自覚をもって学習する」ことに結びつきます。



(5)その上で「受験生としての自覚をもって学習する」ことを私は強くお勧めします。

Q4 : 「自覚をもって学習する」上で参考になる本があったら紹介してください。

A : (1)2冊あります。1冊目は、内村鑑三著「後世への最大遺物、デンマルク国の話」です。2冊目は、内村鑑三著「代表的日本人」です。両方とも岩波書店刊の「岩波文庫」に収められています。

(2)内村鑑三先生の「後世への最大遺物」は講演会の速記録で、ゆっくりと少しずつでも読むととても読みやすい本です。人は死んだあと、「後の世」、つまり「後世」に何が遺せるのかを説いた本です。「お金」か、「仕事」か、「著作(作品)」か、「教育」か、はたまた「生き方」か。人の生きる意味がとてもわかりやすく説かれています。例えば、後世に様々なものを遺した人の例として、デンマークを緑あふれる豊かな国にした人と、「代表的日本人」として、西郷隆盛(新日本の創設者)、上杉鷹山(封建領主)、二宮尊徳(農民聖者)、中江藤樹(村の先生)、日蓮上人(仏僧)の5名、計6名を、この2冊の本ではとてもわかりやすく紹介してくださっています。

(3)内村鑑三先生のこの2冊の代表的な本を、ゆっくりと時間をかけてお読みになり、人生の意味をお考えになってください。このような方々がデンマークや日本にいて、今日のデンマークや日本の礎を築いてくださったのだな、これらの方々を参考にしてこれからの人生で自分は何をしたらよいのか、どのように生活したらよいのかなどをお考えになれることをお勧めします。



(4)その上で、御自分が気になる人の「自伝」や、「リーダー」や「リーダーシップ」とは何かについて書かれた本などをゆっくりとお読みになり、参考にとよいと思います。

(5)リーダーとは何か、リーダーシップとは何かを考えるときに参考になる本として、野田智義、金井壽宏著「リーダーシップの旅—見えないものを見る」光文社新書No. 289、光文社刊をお勧めします。ゆっくりと読めば、中学生・高校生にも十分に「理解」できます。是非、御挑戦を。

(6)これに加えて、自覚をもって学習するために私が強くお勧めしたいのは、小学生も、中学生も、そして高校生も、「新聞」を毎日、一面からしっかりと読むことです。じっくりと腰を落ち着かせて「新聞」を「一面」つまり1ページ目から最後のページまで毎日なめるようにお読みになることです。「新聞」には、地域や日本、世界の出来事の中で新聞社が読者の皆様にお伝えしたい大切なことが手際よく「編集」されています。



地域や日本、世界で今起きていることは何か、その原因は何か、何が問題なのかなど、読者とともに考えたい世の中の課題が紹介されています。

(7)「新聞」をよく読み、地域や日本、世界の出来事や、皆で取り組まなければならない課題をよく知った上で、自分はこれから一生をかけてどのようなこと

をしたいのかを考えるきっかけをつかんでもらいたい。新聞には、世の中の出来事だけでなく、現代という社会をよりよく生きていくための情報が文字通り「山のように」毎日伝えられています。知識や教養が身に着く記事もたくさんあります。

(8)「自覚」の意味の1つとして、広辞苑には「**自分の使命を知ること**」とありました。「使命」という漢字は、よく読めば「**命を使う**」ということです。つまり、自分の大切な命を使う、命をかけて行うことが「使命」という漢字です。自分が自分の大切な命を使ってまでしなければならないことは何なのか。このことを自分の力でよく考え、知った上で学習すること。これが、「自覚をもって学習する」ことです。

(9)このように、内村鑑三著「**後世への最大遺物、デンマルク国の話**」と「**代表的日本人**」の2冊と、御自分でお選びになった方の「**伝記**」や「**リーダーについての本**」、それに加えて、「**新聞**」を毎日読むことが、生きる意味や、今学習する意味を自分の力で考えることにつながります。「自覚をもって学習する」ことに役に立つと私は確信いたします。学校の図書室や県や市、町の公立の図書館、近くの大学にある大学図書館を十分に活用なさり、これらの本や「新聞」をお読みください。

— 福澤諭吉^{ふくおうじでん}著「**福翁自伝**」とシュリーマン著「**古代への情熱**」を読もう —

(1)私がお勧めする伝記は、慶應義塾の創始者である福澤諭吉先生が自らお書きになった「**福翁自伝**」と、トロイの遺跡を発見したシュリーマン先生の「**古代への情熱**」の2冊です。どちらも岩波書店刊の「**岩波文庫**」に収められています。皆様が時間をかけて読むに値する「**古典**」の中の「**古典**」と呼ばれる「**自伝**」です。

(2)ちなみに、「どのような本を読んだらよいか」を考えるときに私が最もお勧めするのは「**岩波文庫**」と「**岩波ジュニア新書**」です。1か月に1冊、じっくりと「**精読**」すべき本を選ぶときには、是非、「**岩波文庫**」と「**岩波ジュニア新書**」からも探してみてください。一生かけて読むに値する本がそろっていますよ。

(3)「**岩波文庫**」と「**岩波ジュニア新書**」以外にも「**文庫本**」や「**新書本**」はたくさん出ています。講談社の「**ブルーバックス**」という新書本シリーズも興味が尽きません。最近の「**文庫**」と「**新書**」はどれもとても読みやすいので、大いに親しんでくださいね。



Q 5 : 学校のテストでよい点数を取る、英検や漢検、数学検定などの検定試験で資格を取得する、希望する学校に入学するなどの目標をもつことも、「自覚をもって学習する」上で大切ですよ。

A : (1) その通りです。日本では出席日数さえ確保すれば中学校や高校で留年する人は少ない。なぜなら、定期試験の成績があまりよくなくても追試やレポートの提出などで補ってくれる学校が多いからです。しかし、多くの国では決められた出席日数を確保すると同時に一定以上の点数が取れなければ留年、つまり、次の学年に進級できない場合が多いようです。定期試験で一定レベル以上の点数を取らなければ進級できずに留年となり、卒業できない国が多いのです。最近では多くの日本の大学も「評価が厳格」で、出席日数を確保した上で定期試験の点数やレポートの内容が一定レベルに達しないと不合格となり、単位がもらえません。

＊世界でも日本でも、入学が難しい大学ほど、大学の質を保つために「評価が厳格」です。

(2) ですから、学校の定期試験や実力テスト、単元テスト、確認テストなどを受けるときにも、自分は学校で学習する生徒であるからよい点数を取らなければならないという「自覚をもって学習」することが求められます。「自覚をもって学習」すると、誰でもよい点数が取れます。

＊世の中のすべての試験、テストは、「この試験、テストでよい点数を取ろう」と「強い決意」をし、試験のために早め、早めの「準備」を十分にしさえすれば、必ずよい点数が取れます。しかし、「決意」をせず、「準備」もしないとよい点数は取れず、不合格となります。

(3) 「英検」や「漢検」、「数学検定」などの「3大検定試験」も「自覚をもって学習する」ことです。「3大検定試験」に毎年合格するための学習をしっかりと積み重ねると学力が身に着き、必ず合格します。しかし、自覚が不足し、学習を怠^{おこた}ると、簡単に思われる級の試験でも不合格になります。どのような試験も侮^{あなど}ってははいけません。どのような試験も、試験は試験です。試験を軽くみてばかりでははいけません。

(4) まして、「公立中高一貫校」や「私立中学校」、「高校」、「大学」などに進学を希望する受験生は、決して受験を侮^{あなど}ってはなりません。「自分は来春、入学試験を受験する受験生なのだ」という「受験生としての自覚」を「一日も早く」しっかりとって学習することが大切です。



Q 6 : いつから「受験生としての自覚」をもてばよいのですか。

A : (1)はつきり言えば、「受験生としての自覚」をもつのは早ければ早いほどよいのです。例えば、「私は将来～になりたい。～になって…をしたい。そのためには大学で勉強しなければならない。その大学に入学するためには高校に入らなければならない。ではどこの高校がよいか」などと考えて、入学したい高校を決める。その高校の受験を決めることです。

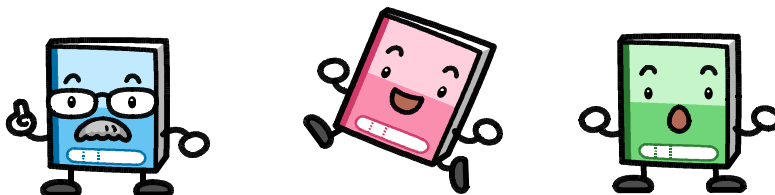
(2)このような決意をした人は、たとえ中学1年生、高校1年生でも「受験生」です。中学1年生、高校1年生から「受験生としての自覚をもって学習」すれば、どのような難しい高校や大学にも合格が果たせます。入学をすることができます。ただし、「受験生としての自覚をもつ」のが受験直前、つまり、3年生の夏休みが終わったあとだと、難しい学校ほど入学するのが困難になる。これが厳しい現実です。ですから、「受験生としての自覚をもって学習する」のは早ければ早いほどよいと私は考えます。できれば、「志望校」は受験日の1～3年前に決定することを強くお勧めします。どんな学校も1～3年あれば必ず合格しますよ。



(3)では、来春に入試を控えた小学6年生、中学3年生、高校3年生で「将来の進路」や「志望校」が決まっていない、それぞれの学校の「最終学年の生徒としての自覚」、「受験生としての自覚」が足りない人はどうするか。

(4)私がお勧めしたいのは、今日からでもよいですから、家や図書館で新聞を毎日一面から1時間以上読み、世の中ではどのようなことが起きているのかをよく知って、そのような世の中で自分がしなければならないこと、社会のために自分ができそうなことを自分の力でよく考える。その上で、そのようなことをするためには、どのような学校に進学して、どのようなことを学ぶのか、今、具体的に何をしたらよいかをよく考えることです。

(5)自分の進路ですから、自分の力でしっかりと考えた上で1日も早く「受験生としての自覚をもって学習」する。そのとき一番役に立つのが「新聞」です。今日からでも、家や図書館の新聞を毎日1時間以上読みましょう。



Q 7 : 「効果の上がる学習の秘訣」の 2 番目の「学習時間の確保」の仕方をお話ください。

A : (1) 1 日は 24 時間しかありません。眠ったり、休んだり、食事をしたり、トイレに行ったり、入浴をしたりする時間も大切です。買い物、食事作り、あと片付け、掃除、洗濯物の取り込み、箆笥への収納などの「家事」をするにも時間がかかります。家の仕事の手伝いやアルバイトをしなければならない人は、そのための時間も取らなければなりません。こう考えると、毎日はとても忙しく、「学習時間」はどんどん少なくなっていくます。

(2) 当然のことですが、「学校」では授業時間の他に、学校への行き帰り、部活動、学校行事、部活動の遠征などにも時間を取らなければなりません。

(3) このように考えると、たとえ学校の生徒であっても毎日の生活はとても忙しいです。そこで、その中で自分の目標達成のために学習をする時間が少しでも取れたら、そのコマ切れの時間をたとえ 1 分でも宝物のように大切にして、その時間だけでも一心不乱に学習に集中することをお勧めします。

(4) ゲームやスマホ、ケータイ、iPad、メール、ツイッター、フェイスブック、TV など、世の中にはやればやるほどおもしろいこと・興味をひかれることはたくさんあります。しかし、自分が今やらなければならないことは何かをよく考える。そのようなことを行う時間を少なめにする。できれば一切やらないこと。こう決意することも、特に受験生には大切です。自分が今しなければならないことは何なのか、自分の立場や義務、社会的使命などを十分に「自覚」した上で、学習に傾ける時間をたとえ 1 分でも多くし、学習に集中することです。学習時間を 1 分でも多く確保し、その短い時間、学習に集中することが大切です。



(5) ただし、よく考えてみれば、学校生活や家庭生活は自分以外の人とともに生活する共同生活です。ですから、他の人との共同生活をする上で必要な時間はそれなりに大切にしたい上で、他のメンバーに迷惑のかからない範囲で、最大限に「学習時間を確保」し、その時間は学習に集中する「工夫」をすることです。

(6) そこで、私が皆様に最も御提案したい「工夫」は、学校という場所での「学習時間の確保」です。学校での「授業前」や「授業後」、特に「授業中」こそ

しっかりと「学習時間を確保」して学習に集中する、「自覚をもって学習すること」です。

①「授業前」の数分間には、これから行われる授業科目の「ノート」や「プリント教材」、「教科書」に「1 ページ目からザッと目を通す」こと。たとえ数分間でも学習に集中しさえすれば、今までに学んだことの復習ができ、知識が「定着」します。授業直前にたとえ1～2分間でも学習に集中し、復習を行うと、今までに学習したことがさらによく「理解」でき、頭に入ります。「記憶の痕跡」が残り、それまでに学んだ知識が「定着」します。そうすると、先生の授業にパッと入っていただけます。先生の授業の内容が「完全に理解」できます。

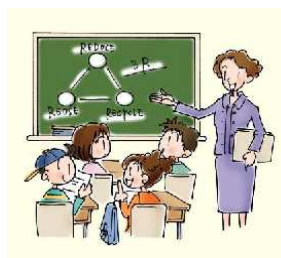
②「授業中」は、先生のお話を一言も聞き漏らさないように、目を輝かせながら熱心にお聞きする。授業中こそ教科書や教材を一語残らずよく読み、そこに書いてあるのはどういうことかをよく考える。大切なことはすべてノートに取る。わからないことは、先生の許可を得た上で、遠慮なくどんどん質問する。このようにすることで、「授業中の理解」が進みます。

③前回の授業までに学んできたことがよく「理解」でき、それらの多くが正確に「定着」していればいるほど、また、先生の授業を目を輝かせて熱心に受ければ受けるほど、その日の授業で新しく学ぶことがらがよく「理解」できます。「完全に理解」できます。

④ですから、毎回の授業前に、それまでに学んだ内容を「ノート」や「プリント」、「教科書」などを用いてたとえ数分間でも集中的に学び直す、絶えず「復習」することは、極めて高い学習効果を生み出すと言えます。是非、今日からでもやってくださいね。

⑤「授業終了後」は、学校にいる間に1分でも多く「学習時間を確保」した上で、授業の内容を思い出しながら教科書や教材を読み直し、計算や問題があったらすべてもう一度やり直し、ノートをわかりやすく整理することに集中すると、「理解」が確実になります。知識が身に着きます。

(7)私は、学校でこそ「学習時間を確保」することが大事であると考えます。学校の教科書やプリント教材、学校で用いる問題集や授業中のノートは、学校の授業直前に少しでも「予習」をした上で授業を受ける。授業中は先生のお話で「理解」に励む。授業後は学校にいる間に少しでも「復習」をして「定着」に励むことをお勧めいたします。



Q 8 : では、一体どこで学習したらよいのですか。図書館で学習することも考えられますので、図書館での学習について気をつけたほうがよいことを教えてください。

A : (1) 学校の図書室や図書館(以下、まとめて「図書館」と言いますので、御了承ください。)で学習するときには一番大切なことは、静かさを保つことです。なぜなら、図書館は静かに本を読んだり調べたりする公共の場所だからです。友だちと一緒に図書館に行っても、**図書館の中ではおしゃべりを一切しないこと**です。必要なことがあったら、他の人に聞こえないように小さな声で話すこと。図書館員と話するときにも小さな声で話すこと。図書館では大きな声で話すことは禁止です。

(2) 図書館の本は公共のものです。みんなのものです。一人の利用者だけのものではありません。これから何十年も、何百年も読み継がれるものです。ですから、図書館の本への書き込みは一切しないこと。書き込みは一切禁止です。本のページを絶対に折らないこと。本を傷つけないこと。もとの状態で返却すること。とにかく図書館の本は公共のもの、みんなのものですから、「きれい」に使うことです。本を汚さないために、図書館の本を読む前には石けんで手を洗うことをお勧めします。

* 図書館の本を破ったり傷つけたりすることは器物損壊罪という犯罪に該当しますので、罰せられます。また、損害賠償の請求を受けます。

(3) 図書館で借りた本は期日までに必ず返却すること。期日までに返さないと、他の人が利用できないからです。



(4) 図書館の自習室は混み合っていることが多いので、開館時間を予め調べ、開館時間の少し前に行って、列をつくって待ち、ながめのよい、よい席を確保すること。どの席を利用するかも、学習の効果の上では大切です。

(5) 図書館に入ったら、まずはトイレを済ませる。そのあとは、とにかく一心不乱に読書や自習、調査に励むことです。ただし、1 時間に 5 ～ 10 分は休み時間を取り、軽いストレッチ体操を行ったり、トイレを済ませたりすることです。気分転換も大切です。

(6) 図書館内での飲食は禁止です。どうしても水が飲みたかったら、カバンの中にペットボトルを入れておいてその水を飲み、飲み終わったらカバンの中に戻すこと。机の上にペットボトルを置くことは、図書館の雰囲気壊します。

* 多くの大学の図書館では、机の上にペットボトルを置くことは禁止です。置いておくとも注意されます。従わなければ、退室を命じられます。

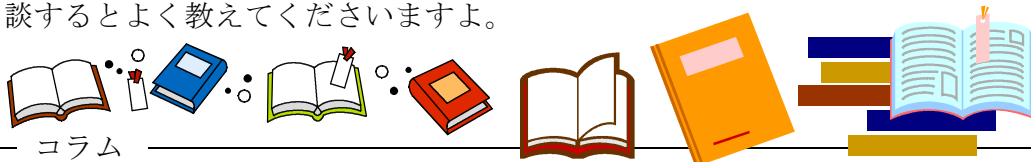
＊ところで、都心の大学を除いて日本国中の**多くの大学の図書館は、地域の人々に開放されています**。一定の入館の手続きを踏みさえすれば、小学生、中学生、高校生や一般市民の方も近くの大学の図書館は使用可能です。自分の学校の図書室の他に、自分の街にある公立図書館や近くの大学や短期大学、専門学校にある図書館もルールを守った上で大いに利用しましょう。私が大学院の客員教授を務める宇都宮大学の大学図書館も、手続きを踏み、ルールを守りさえすれば、市民をはじめ皆様の利用が可能です。

- (7) 図書館のいすを引くときには、音を立てないこと。席を離れるときには、必ず、いすは音を立てずに元の位置に戻すこと。「消しゴム」のカスなどはティッシュでまとめ、図書館のゴミ箱^{から}に入れずにカバンの中に入れて持ち帰り、家のゴミ箱に捨てること。空のペットボトルなどのゴミもすべて家に持ち帰って家で処分すること。

＊このような図書館などの「公共施設」を使うときの「マナー」も少しずつ身に着けてください。

- (8) 図書館には新聞が何種類かそろっていて、毎日読むことができます。今までに発行された新聞も読むことができます。大学の図書館にも外国の新聞が何種類かあります。英語の新聞があれば、わかるところだけでも毎日読むこと。日本語の新聞を読んだあとに英語の新聞を読むと、英語の新聞もよくわかりますよ。DVD や CD、学習マンガ、月刊や週刊の雑誌なども、どこの図書館にもたくさんあります。それらを見たり、聞いたり、読んだりすると、学習への興味・関心・「理解」が深まります。

- (9) 何を読んだらよいかかわからなければ、図書館にいる図書館司書の先生に相談するとよく教えてくださいますよ。



コラム

日本にはまだあまり多くありませんが、外国の大学の図書館は 365 日 24 時間開館しているところがあります。私は、今から 15 年前の 1999 年にアメリカのボストンにあるハーバード大学行政大学院(ケネディスクール)の一部である国際開発研究所で 3 週間の民営化の短期集中コースに参加しているときには、時間があると教室の横にある早朝から深夜まで、また、休日にも開いている図書館で予習や復習をしていました。日本の大学でも、慶應義塾大学の藤沢キャンパスの図書館は一晩中やっているようです。

Q 9 : 「学校の図書室」はどのように活用したらよいのですか。

A : (1) 自分の学校の図書室にこそ毎日通いつめることです。時間があったら学校の図書室に行き、新聞や雑誌を読む。学校の各教科の教科書に出ている本や授業中に先生が推薦してくださった本を探し、たとえ最初の 2 ～ 3 ページでも読んでみる。気に入ったら、貸し出しの手続きを済ませて図書室や教室、自宅などでじっくりと読む。



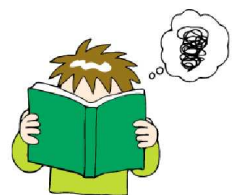
(2) 授業の予習や復習も学校の図書室で済ませることを私は強くお勧めします。ただし、居眠りやおしゃべりは一切しないこと。これも大事です。

Q 10 : 「効果の上がる学習の秘訣」の 2 番目の「学習時間の確保」について、他にアドバイスはありますか。

A : (1) 学習をしたあとに、コンピュータゲームなど刺激の強いことは一切やらないことをお勧めします。あとにもお話しますが、「学習」は「理解→定着→応用」と、かなりゆっくりに行ってはじめて「効果」が生まれます。つまり、学ぶべき内容を 1 つ 1 つゆっくりに「辞書」や各教科の「用語集」などを利用して「理解」したり、その「理解」した内容をしっかりと身に着けたりするために、声を出して読む「音読練習」や正確に書けるようにする「書き取り練習」、「計算・問題練習」などをします。

(2) このようになんかゆっくりにした取り組みをして、学力を少しずつ向上させるのが学習です。しかし、学習の直後にコンピュータゲームなどをして頭脳を激しく用いると、「記憶の痕跡」があまり残らず、せっかく「理解」したことや「定着」したことが無駄になってしまう、ガチャ、ガチャとかき消されてしまうこともあります。ですから、コンピュータゲームなど刺激を与えるものは、学習の直後には一切行わないことを私はお勧めします。

(3) 「悩む」時間が長いと、「学習時間の確保」が難しくなります。成績が上がらないことに悩んで学習が手につかないという方もいますが、私はその方に次のことをお伝えしたい。「いくら悩んでも成績は上がらない。悩む時間は 1 日 30 分まで。悩む時間があったら机に向かうこと」と。ただし、現実的には、悩みが深いと机に向かう気にはなれないでしょうから、「気分転換」する方法を身に着けておくことをお勧めします。



(4)「気分転換」の方法としては、好きな音楽を聞いたり、散歩に出かけたり、家事や家の仕事を手伝ったり、スポーツや芸術活動に励んだりすることをお勧めします。また、ピアノなどの楽器が演奏できる人には、好きな曲を1人で演奏することをお勧めします。映画を見たり、読書をしたり、お友だちや家族とおしゃべりを楽しんだりすることをお勧めします。「悩む時間は30分まで。悩む時間があったら机に向かおう、気分転換をしよう」、私はそのように思います。皆様はどのようにお考えになりますか。

(5)整理、清掃、整頓を。カバンの中や机の上、机の中、自分の学習スペースが乱雑だと、ものを探すのに時間がかかり、「学習時間の確保」の妨げになるからです。

「5S」のすすめ

(1)そこでお勧めしたいのが、「5S(ゴエス)」です。「5S」とは「整理」「清掃」「整頓」「清潔」「躰」のことです。それぞれの言葉をローマ字で書くと、「seiri」「seisou」「seiton」「seiketsu」「shituke」と、すべて「S」(エス)で始まります。5つのSなので「5S」と言います。「5S」のそれぞれの「S」には、次のような特別な意味があります。



(2)「5S」とは

- ①「整理」とは「不要なものを処分すること」です。
- ②「清掃」とは「整理したあとをきれいにお掃除すること」です。
- ③「整頓」とは「必要なものを一定の場所に置き、サッと取り出せるようにすること」です。
- ④「清潔」とは「①～③の状態を継続すること」です。
- ⑤「躰」とは「以上のことを他人に言われなくても自分の意志で行う、自主的に行うこと」です。

(3)具体的には

- ①自分の筆入れの中、カバンの中、学校や家の机の上、机の中、ロッカーや本棚などの学習スペース、タンスの上やタンスの中など身近なところから、まずは「整理」しましょう。「整理」つまり不要なものを処分しましょう。

- ②次に、「整理」したあとをきれいに「清掃」する。



- ③「掃除」したら、1つ1つのものの位置を決め、同じところに置き、サッと取り出せるように「整頓」する。



④それらの状態を続けることで「清潔」を保つ。

⑤保護者や先生などの他人からやりなさいと言われなくても、自分から進んで、自分の意志で積極的に「整頓」を行うこと。これが「躰」です。

(4)「5S」は家での生活や学校での学習・活動にも役に立ちますが、皆様が将来、学校を卒業して仕事や社会的な活動をするときにもとても役に立ちます。学校時代から「5S」に励むと、仕事や社会的な活動をするときにとっても役に立ちますよ。是非、今のうちから「5S」に親しみ、「5S」を身に付けてくださいね。

(5)試しに、皆様の保護者の方や、お知り合いの方で仕事をしている方に、「5S」は社会に出て仕事をするときに役に立つのかを質問してみてください。「よい質問をするね」と誉められるかもしれませんよ。

(6)皆様も御一緒に、まずは筆入れやカバンの中、家や学校の机や物入れの中からスタートし、自分の自主性を大切にする「5S」活動を試みませんか。

(7)開倫塾の創業の地であり、本部のある栃木県足利市は、日本最古の学校「足利学校」のある街として知られていますが、働く人々の自主性を大切にする「足利流 5S」でも日本国内だけでなく、海外でも知られています。足利商工会議所の中には「足利 5S 学校」があり、工場など製造業だけでなくサービス業や学校、市役所でも「5S」に励んでいます。開倫塾では、「足利 5S 学校」を参考に「開倫5S学校」を昨年秋にスタート。5S 活動に励んでいます。

(8)家の方や、友だちなどとケンカをすればしばらくの間はイライラがつのり、「学習時間の確保」が難しくなることがあります。そこで、心を穏やかに保ち、ケンカをしないようにすることが大切です。ケンカ後しばらくたって反省をし、「お互いに少しやり過ぎた」と考えたら、その相手と早めに仲直りをするのが大切です。ケンカをしたあとの仲直りの仕方としては、心を込めて「大きな声であいさつをすること」をお勧めします。例えば、「おはよう」「こんにちは」「こんばんは」「さようなら」「行ってきます」「ただいま」「いただきます」「ごちそうさまでした」「おやすみなさい」などと大きな声で心のこもったあいさつをする。そうすると、相手は「自分に対して悪い感情をもっていない」ことを「理解」して仲直りをするよいきっかけがつかめますよ。是非、試してみてくださいね。



11 : 「効果の上がる学習の秘訣」の3番目に、「学習方法を工夫する」とあります。どういことですか。

A : (1)すべて、ものごとを行うときには、うまくやる「やり方」、「方法」があります。その場で思いついたことを思いついたままの「やり方」、「方法」ではなく、どうしたらうまくできるか、その「やり方」、「方法」を工夫したほうがよい結果が出ます。「学習」をするときも、やりたいように、また、その場で思いついたままに、何時間も机に向かっても、よい結果が出るとは限りません。「学習の仕方」をよく考えた上で工夫し、自分の今の学力の状態にピッタリと合った「やり方」、「方法」でしたほうが、よい結果が出ます。

(2)では、どのようにしたらよいか。私は、「学習」を3つの段階に分けて1段階ずつやり方を工夫することを皆様に御提案、お勧めしたいと思います。

(3)学習を3つの段階に分けて、各段階にふさわしい学習の仕方とは何かを考えて理論として、つまり、1つのまとまった考えとしてまとめ上げたのが「学習の3段階理論」です。



Q12 : 何ですか、その3つの段階とは。また、「学習の3段階理論」とは何ですか。1つ1つをわかりやすく、また、詳しく説明してください。

A : (1)私は、「学習」は「理解」「定着」「応用」の3つの段階に分けられ、1つ1つの段階にふさわしい学習のやり方、学習方法を自分なりに工夫すると「効果の上がる学習」ができると考えます。これが「学習の3段階理論」です。

*この名前は私が考えました。その内容も私が考えて、まとめ上げました。これから御説明しますので、ゆっくりとお読みになり参考にしてくださいね。

(2)「学習」の第1段階の「理解」とは、今、学んでいることが「ああ、これはこういうことかとよくわかること」「うんなるほどとよくわかること」「腑に落ちること」です。

(3)「学校の授業」はもちろん、「学校の教科書」「学校の副教材・プリント」「学校の問題集」「学校の授業中のノート」などが「うんなるほど」とよくわかること、これが「理解」です。少しずつ説明しましょうね。「理解」で一番大切なのは「学校の授業」です。

*スペースの都合で「学習塾や予備校」のことが書いてありませんが、「学習塾や予備校の授業、副教材・プリント、問題集、授業ノート」も「学校」とすべて同じと考えてくださいね。

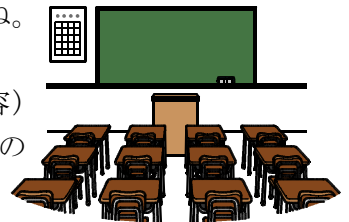
Q13 : 「学校の授業」を「理解」するにはどうしたらよいですか。

A : (1)授業ではできるだけ前の席、できれば一番前の席に着席すること。先生までの距離が近ければ近いほど、先生の授業がよくわかります。黒板に書く内容もよく見えます。後ろの席になればなるほど、先生の授業がわかりにくくなることがあります。先生が黒板に書いたことがよく見えないことがあります。

(2)姿勢を正し、手を机の上に置き、先生の目を見て、先生のお話を一言も聞き漏らさないように、熱心な態度で目をキラキラ輝かせて積極的に「授業」に臨むことです。

(3)「授業」中は、先生の指示に従って、また、自分から進んで、積極的にグループワークや実験、観察、実技などを行ってくださいね。

(4)先生が黒板やホワイトボードに書いた内容(板書内容)は、すべてノートに取る。これに加えて、授業の内容の中で必要なことをノートに取り続けること。



(5)授業中にノートを取ることができるのは、大切な「能力」の一つです。

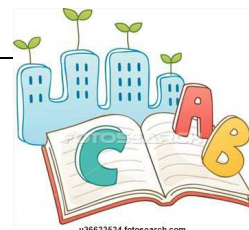
「ノート」と「メモ」の大切さとは

- ①授業中に「ノート」を取るのには、とても高い能力が必要とされます。授業の「ノート」が取れる人は、「ノートを取る能力」が高い人です。授業中に学ぶ内容が難しくなればなるほど「ノート」を取ることが難しくなりますので、板書事項や先生が授業中にお話になった大切なことは、注意を集中してよく聞き取り、できるだけ正確に「ノート」に取るように努めてくださいね。
- ②ところで、社会に出て仕事などをするようになると、「ノート」を取らずに「メモ」を取ると言うようになります。仕事や社会的な活動だけでなく家事や個人的な生活をするときにも、必要なことを正確に「メモ」し続けることはとても大切です。例えば、人と会う約束をするときに、何時、どこで、誰と、何のために会うのか、何を準備しなければならないのかなどを、電話やメールで打ち合わせて、その内容を自分の手帳に「メモ」しておくことは、会う約束を果たす上で欠かせません。
- ③また、いろいろな人と打ち合わせをしたり、教えて頂いたりしたことを「メモ」し続けてはじめて仕事や社会に出てからの活動をすることができます。ですから、授業中の「ノート」をあとで読みやすいように「整理」することが大切のように、一度取った「メモ」をあとで利用しやすいように「整理」

することも大切です。授業中の「ノート」や仕事の上での「メモ」を読みやすいように「整理」した上で、それらを繰り返し読み直し、すべてを身に着けることはもっと大切です。

④このように、学校の授業中の「ノート」や社会に出てからの「メモ」はとても大切なものです。ですから、学校にいる間に授業中にしっかりと「ノート」を取り、授業後にその「ノート」を読みやすいように「整理」し、繰り返し読み直してすべてを身に着けることは、学校を卒業後に社会に出て仕事や社会的な活動をするとき、また、家庭での生活をするときに必要なことを「メモ」し、それを活用する上での素晴らしい「予行練習」となります。

⑤「仕事はメモで覚える」「仕事のできる人はメモをよく活用する」と言われるほど、「メモ」を取り続けること、「メモ」を整理し、「メモ」を活用することは仕事の上で大切です。



Q14：えーっ、授業中にノートを取ることは能力なのですか。

A：(1)はい。その通りです。極めて高い能力の一つです。

(2)では、逆にお尋ねしますが、皆様はハングル語やタガログ語、中国語での授業のノートは取れますか。フランス語やロシア語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語での授業のノートは取れますか。日本の学校で学ぶ多くの人は、英語での授業のノートはほんの少しだけは取れるかもしれませんが、日本語ほど正確には取れないのではないのでしょうか。

(3)このように、1つの言語での「授業のノートが取れる」ことは極めて高い言語能力をもつことを意味します。

Q15：ノートは取らなくてよい、授業はただ聞いていればよいという人もいますが、どのようにお考えですか。

A：(1)授業の内容のすべてを覚えていられる人はそれでもよいかもしれませんが、しかし、授業の内容は、学年が進めば進むほど難しくなります。学ばなければならない分量も多くなります。そこで、授業中に聞いたときは「うんなるほど」とよくわかって「理解」できたことも、「ノート」を取っておかないと忘れてしまうことも多いのではないのでしょうか。授業は家族やお友だちとのおしゃべりとは違いますからね。

(2)私は、授業の大切だと思われることはすべて「ノート」に取っておくこと、授業のノートはあとで読みやすいように「整理」した上で繰り返し読み直し、スミからスミまですべてを身に着けることをお勧めします。

(3)授業中、ノートを取らずに腕を組んで聞いているだけの人は、その場では、「うんなるほど」とよくわかって「理解」できても、あとになるとすべて忘れてしまい、学力が身に着かないことが多い。たとえ覚えていても断片的に覚えているだけで、授業の大切な内容のすべてを正確には覚えていない。ノートに書いておかないと、時間が経過すると忘れてしまうことが多い。そのように思います。

(4)大切なことを記録するために、人類は「パピルス」、「紙」というものを発明し、「ノート」という道具を作ったのですから、授業でも十分に利用してくださいね。

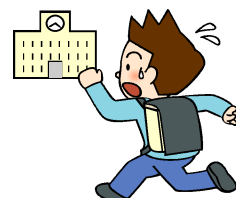
(5)ところで、イギリスでは「ノート」を「ノートブック」と言います。授業中にノートを取り続け、また、自分でテーマに添った「ノート」を作り続け、自分で調べたり、考えたりしたいろいろなことを書き加え、それらを読みやすいようにまとめ上げると自分のための1冊の「本」のようになりますので、「ノートブック」と呼ぶのだと思います。私は、その「ノートブック」という言い方、考え方が大好きです。皆様も、自分のための「マイ・ノートブック」を作ってみませんか。



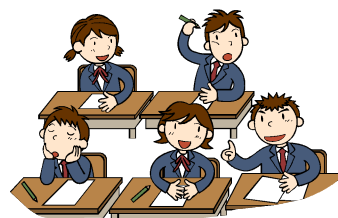
Q16 : 「授業中の理解」の妨げになるものは何ですか。

A : (1)「欠席」、「遅刻」、「早退」、「居眠り」、「徘徊」、「私語(おしゃべり)」、「ケータイ」、「メール」、「iPad」、「スマホ」、「ボーッとしていること」などです。かなり準備をして先生が熱心に「授業」をしてくださっていても、遅刻や欠席、早退をして教室に存在しない、教室に存在していても居眠りなどをしていて授業に集中していないことは、すべて「授業中の理解」の妨げとなります。できるだけ避けるべきです。

(2)例えば、遅刻や欠席、早退の多い人は先生が授業をしてもそこに存在しませんから、「授業中の理解」が少ないので、学力があまり高くない。遅刻や欠席、早退の少ない人ほど学力は高い。これは当然のことと言えます。



(3)特に、授業中の私語(おしゃべり)は、おしゃべりをしている本人や相手だけでなく、そのクラスにいる全員の「理解」を著しく妨げる「授業妨害行為」ですので、絶対に行ってはいけません。授業中は「お口にチャック」をし、授業の妨げになる言葉は一切発しないことが大切です。



(4)質問や議論に積極的に参加することはもちろん大切ですが、私語(おしゃべり)は絶対禁止です。私語があると、先生が予め計画してその日に進めようとした授業ができませんので、授業が成立しません。クラスの生徒全員の「理解」が進まず、クラス全体の学力低下の原因になります。

Q17:「学校の教科書」「学校の副教材・プリント」「学校の問題集」「学校の授業中のノート」などを「理解」するにはどうしたらよいのですか。

A : (1)例えば「学校の教科書」と「学校の副教材・プリント」なら1ページずつ、1章ずつ、1つの文章ずつ丁寧に読み、そこに書いてあることを「うんなるほど」とよく「理解」することです。

(2)よく「理解」できたら、次の文、次の文章、次のページへと読み進めていくことです。

(3)読み進めていくうちに、「これはどのようなことなのか」とよくわからないことがあったらどうするか。よくわからない・よく「理解」できない原因を自分で考えてください。

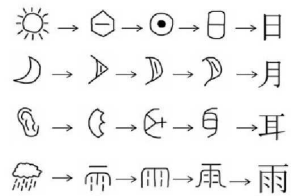
(4)よくわからない・「理解」できないことの原因が「ことば」の意味がわからないためでしたら、「国語辞典」や「漢和辞典」、「英和辞典」や「英英辞典」で「ことば」の意味を調べることをお勧めします。

＊自分のものとしての辞書がなければ、図書館に行き、そこに備えてある「辞書」を用いることが大切です。「毎日」図書館に通ったほうがよいのは、家にはないこれらの「辞書」を利用するためでもあります。

(5)「国語辞典」や「漢和辞典」、「英和辞典」や「英英辞典」は、「武士の刀」と同じで、学習するときにはいつも身近に置いておかないと勝負にならない、戦うことができないものです。辞書があると、わからない「ことば」をパッと調べることができます。しかし、辞書がないとその場ですぐに調べられないので、学習が先へ進みません。ですから、「武士の刀」と同じだと私は考えます。

- (6) 辞書を持つなら自分が一番使いやすいものがよいので、なるべく大きめの書店や図書館に行き、たくさんの「国語辞典」や「漢和辞典」、「英和辞典」や「英英辞典」の中から自分の現在の学力に一番合った使いやすそうなものを選んでください。見やすい・調べやすい・持ち運びやすい辞書を選んでください。
- (7) 電子辞書は持ち運びが便利なので O.K ですが、紙の辞書にもよさがたくさんあります。ですから、家では紙の辞書をボロボロになるまで用いることを私はお勧めします。
- (8) 一度使った自分の辞書は、たとえボロボロになっても捨てないで、ブックカバーなどをして大切に大切に一生使うこと。使い込むほど味が出て自分のものになるのが辞書です。
- (9) 自分の辞書や図書館の辞書を用いて調べた「ことば」の意味は、教科ごとの「意味調べノート」に正確に書き写して「記録」しておくこと。書き写した「ことば」の意味は、その「ことば」と一緒にその日のうちに正確に覚えてしまうことを心掛けてください。
- (10) 1 日に 10 の新しい「ことば」を辞書を用いて調べ、意味とともにノートに書き写した上で正確に覚えれば、1 年 365 日で 3650、3 年で 1 万、6 年で 2 万の「ことば」とその意味を身に着けることができます。
- (11) 「ことばは力」です。正確に身に着けている「ことば」の数が多いほど、教科書や教材、プリント、問題集だけでなく、本や新聞などに書いてある内容がよくわかります。授業などで先生がお話になっている内容や、人が話している内容、TV やラジオの少し難しい番組の内容がよくわかります。自分で話したり書いたりするときにも、それらの自分で身に着けた「ことば」を用いることができます。「学力」も向上してテストでよい点数が^{げんこのうりよく}取れ、仕事や生活に役立てることもできます。この「ことばの力」を「言語能力」と言います。
- (12) このように、「ことばは力」、「ことばの数は力」です。わからない「ことば」があつたら、「国語辞典」や「漢和辞典」、「英和辞典」や「英英辞典」でパツパツと調べ、その意味を確かめた上で「意味調べノート」に「ことば」と意味を正確に書き写し、その日のうちに正確に覚える。
- (13) 「英和辞典」の他に、英語で英語の意味が説明してある「英英辞典」も少しずつ利用し、使いこなすことをお勧めします。

- (14)「国語辞典」の他に、漢字の成り立ちや意味が説明してある「漢和辞典」も少しずつ利用し、使いこなすことをお勧めします。

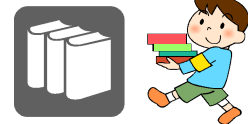


- (15) 1日に日本語を10個以上、英語を10個以上、これら4つの辞書を用いて調べ、学習の習慣にしましょう。この4つの辞書を自由に使いこなすことは、皆様の人生を充実するために大いに役立ちますよ。



- (16) 毎日1～2回は「意味調べノート」に1ページ目から目を通すと、すべての「ことば」とその「意味」を忘れることはありません。「意味調べノート」も一生かけて作り続け、ボロボロになるまで目を通してください。一生のうちには、皆様が驚くような高い学力が必ず身に着きます。「ことばは力」です。

- (17)「意味調べノート」の作り方と活用の仕方は、皆様が将来いろいろな教科や言語(外国語)を学習するときに必ず役に立ちます。新しく学ぶ教科ごとに、また、英語以外の新しく学ぶ言語(外国語)ごとに「意味調べノート」を作り、いつも1ページ目から読み直して「ことばの数」「語彙数」「ボキャブラリーの数」を増やしてくださいね。「ことばは力」です。



Q18:「ことば」の意味はわかるが、その「内容」がわからないというときはどうしたらよいですか。

A : (1)そのときは、教科の「用語集」や「学年別参考書」、「百科辞典」などで調べることをお勧めします。

- (2)小学生、中学生、高校生の各教科の「学年別参考書」はとてもよくできているものが多いので、自分の学力に合ったもの・自分が読んでよくわかるもの・使いやすいものを少し大きめの書店や図書館でお選びください。たまには、東京の大きな書店に行き、半日ぐらいかけて教科の参考書などを選ぶことをお勧めします。古本屋さんにもよい本はたくさんあります。

- (3)例えば、東京の神田にある三省堂書店の6階には「学校の検定教科書コーナー」があります。そこでは日本中の教科書が見られ、お金を払って買うこともできます。是非、1年に1回ぐらいは保護者の方々とともにお出かけになることをお勧めします。(予めHPで場所や営業日、時間などを確認してから行ってください)

(4)各教科の「用語集」も教科書を出版している会社を中心にたくさん出ています。「ことば」の意味だけでなく、各教科の観点から「内容」のより詳しい説明があるのが「用語集」です。「用語集」をよく読むと、「辞書」だけではよくわからない・「理解」できないことも「理解」することができます。この「用語集」も使いこなしてくださいね。



(5)各教科の各単元のより詳しい内容は、「岩波ジュニア新書」や「講談社ブルーバックス」、その他数多くの「新書本」や「文庫本」で学ぶことができます。

(6)「学習マンガ」や「学習 DVD」も多くの教科で山ほど出ています。

(7)これらのすべてを自分で買い求めることは難しいので、図書館にあるものを大いに活用してください。そこにはないものは「リクエスト」すると、図書館がみんなのために必要と判断した場合には、数か月後には備えられることもあります。ですから、あきらめないで図書館に「リクエスト」してみてください。

Q19 : 「学校の教科書」や「学校の副教材・プリント」、特に「学校の問題集」にある「計算」や「問題」はどうしたらよいですか。授業の前に全部終わらせたほうがよいのですか。

A : (1)時間がかかって大変とは思いますが、自分の力で解けそうな「計算」や「問題」はすべて授業の前にノートに解き、答えを出しておくことをお勧めします。

(2)そのときに注意することは、「学校の教科書」や「学校の副教材」、「学校の問題集」の中には絶対に答えを書き込まないことです。答えを書き込んでしまうと、同じ「計算」や「問題」を繰り返し解く練習ができなくなるからです。また、教科書や副教材、問題集には解答スペースが少ないため、「計算」や「問題」の「途中経過」を書き残すことができないことが多いからです。

(3)ノートには、「計算」や「問題」の「答え」だけでなく、「問題や設問部分」と「計算などの途中経過」も必ず書き込むことです。

(4)自分でやってみてできなかった「計算」や「問題」には、教科書やノートの問題番号のところに印をつけておく。そして、学校の授業で習った先生の解き方や正解をノートに書いておくことが大切です。



(5)以上が、自分の力で行う「学校の教科書」「学校の副教材」「学校の問題集」の「理解」の仕方、つまり「予習」の方法です。このようなやり方での「予習」は、遠慮なくどんどん行ってくださいね。「予習」は時間があるときに先へ先へとどんどん進める。できれば、早めに教科書や副教材、問題集の1冊分を終わらせてしまうことをお勧めします。

Q20 : 「予習」は何のためにするのですか。「予習」の意味は何ですか。

A : (1)「わからないところをはっきりさせて授業に臨むために予習は行う」と私は確信します。

(2)そのために、「学校の教科書」「学校の副教材・プリント」「学校の問題集」を授業の前に自分の力で、辞書や用語集、学年別参考書などを用いて「理解」するように努める。すべての計算や問題も自分の力で解いてから授業に臨む。このように「予習」をして、何がわからないか・「理解」できていなかをはっきりさせる。問題意識を高める。それが「予習」の意味です。

(3)今、お話した「予習」の仕方は小学校でも、中学校でも、高校でも大切ですが、皆様が高校を卒業したあとに進学する大学や短期大学、専門学校、さらには大学院でもとても大切です。社会に出てからものごとを学ぶ場合にも大切なのが、この「予習」の仕方です。



Q21 : 学習の2段階目の「定着」とは何ですか。

A : (1)「予習」や「学校の授業」などで「理解」したことをスミからスミまで正確に身に着けることが「定着」です。

(2)具体的に言えば、一度「うんなるほど」と「理解」した「学校の教科書」「学校の副教材・プリント」「学校の問題集」「学校の授業中のノート」に書いてあることをスミからスミまで一語残らず、また、一問残らず正確に身に着けること。これが「定着」です。

(3)その意味の「定着」のためには、「音読練習」と「書き取り練習」、「計算・問題練習」(「計算ポチ問題練習」と呼びます)の3つの練習が極めて有効です。私は、この3つの練習に「定着のための3大練習」という名前をつけました。



(4)練習は不可能を可能にします。結論から言いますと、「定着のための3大練習」は、学校の定期試験では全教科100点満点を、英検・漢検・数学検定などの検定試験では合格点を、入学試験では希望校合格を約束します。「定着のための3大練習」で一度身に着けたものは、生涯にわたって忘れることはありません。ちょっと学び直せば、つまり、学習し直せばすぐに思い出し、用いることができます。そのくらい効果のある学習方法です。

Q22:「定着のための3大練習」の第1の「音読練習」とは何ですか。

A : (1)すべての教科の「学校の教科書」「学校の副教材・プリント」「学校の問題集」「学校の授業中のノート」などで一度「うんなるほど」とよく「理解」した内容を、「スラスラとよく読めるようになるまで声を出して読む練習をすること」です。

(2)「音読練習」の対象にすべきは、すべての教科の「教科書」「副教材・プリント」「問題集」「授業中のノート」です。

(3)できれば大きな声を出して繰り返し読み、スラスラとよく読めるようにすること。スラスラとよく読めるだけでなく、できればそこに書いてある内容をスミからスミまですべて空^{そら}んじてしまうこと、つまり、大きな声で暗^{あんしやう}唱できるまでにすることです。



(4)では、何回読めばよいのか。私の尊敬する英語の同時通訳の第一人者であった國弘正雄先生は、中学校の教科書を何と「500回」以上ひたすら音読なさり、英語の基礎を身に着けたそうです。立派です。

(5)「問題集」や「授業中のノート」も「音読練習」の対象とすることが大事です。「学校の問題集」はもちろんのこと、「学校の定期試験」や「実力テスト」、「模擬試験」、「英検・漢検・数学検定」、「入学試験」の問題なども、一度問題を解いてなぜそのような解答になるかが「うんなるほど」とよくわかった・よく「理解」できたものは、「問題本文」や「設問」、「選択肢」、解答集のすべての「解説文」をスミからスミまで繰り返し「音読練習」してスラスラと読めるまでにすることです。この「音読練習」こそがすべての教科の成績急上昇、もっと具体的に言えば、偏差値急上昇のポイントとなります。



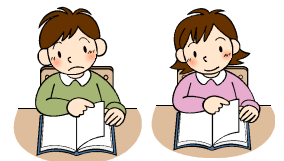
(6)例えば「英検」なら、リスニング問題や面接問題も含めすべての問題文の本文、すべての設問、すべての選択肢、解答解説ページのすべての文章について辞書を用いて意味調べをし直す。そして、どのような意味の内容かを十分に「理解」した上で、すべてがスラスラとよく読めるようになるまで「音読練習」を繰り返すこと。これが、英検 5 級、4 級、3 級、準 2 級、2 級、準 1 級などすべての英検の級の合格秘訣と言えます。大学入試センター試験や高校入試の「英語」でも全く同じです。

(7)「英語」だけでなく、「社会」、「理科」、「国語」、「数学」、さらには「音楽」、「美術」、「技術・家庭」、「保健・体育」などすべての教科の教科書、副教材・プリント、問題集、一度やったテスト問題の徹底的な「音読練習」は、小学校でも、中学校でも、高校でも、大学・短期大学・専門学校でも、大学院でも有効です。司法試験、公認会計士試験、医師国家試験、薬剤師試験、看護師試験、介護士試験、ケア・マネジャー試験、国家・地方公務員試験、教員採用試験など、どんなに難しい試験でも極めて有効です。本気で「音読練習」に励めば、すべての教科の学力が身に着き、成績は驚くほど上がります。



(8)学校時代だけでなく、一生使える学習方法です。ですから、この「音読練習」だけでも O.K. です。開倫塾にいる間に徹底的にやり抜き、その方法を身に付けてください。

(9)これほど大事な「音読練習」なのに、実際に本気でやっている人は 1000 人中ほんの数人だけです。この文章をお読みの皆様は、是非、1000 人中の数少ない数人の中に入りたいと思います。



(10)10 年ほど前に、パリに本部のある国際機関である OECD(経済協力開発機構)のチームの一員として中国の北京にある北京師範大学での国際会議に参加した時のことです。大学の中にホテルがあったので、会議の前日の日曜日の夕刻、大学の構内を散歩していましたが、大学の教室では大勢の大学生や大学院生が黙々と自学自習をしていました。庭に出ると、多くの学生が英語の音読をしていました。中国人の学生は正確な英語を話す人が多い理由がわかりました。大学生でも必死に音読練習をしているためです。



Q23 : 「音読練習」はそんなに大事なのですね。よくわかりました。「定着のための3大練習」の第2番目の「書き取り練習」とは何ですか。

A : (1) 音読練習を繰り返してスラスラとよく読めるようになった内容を、何も見ないで楷書で正確に書けるようにする練習を「書き取り練習」と言います。

(2) 「楷書」というのは学校の教科書の書体^{しよたい}のことです。書き順も含めて正確に書けるようになるまで、何回も繰り返して書く練習をしましょう。

(3) 小学生のときはよくしますが、中学校に入るとおっくうがってあまりやらなくなり、高校や大学に入るとさっぱりしなくなる人が多いのが、この「書き取り練習」です。

(4) コンピュータの自動変換や自動読み取りの機能が増したので正確に書けなくても困ることはないと思安易に考えないことが大事です。

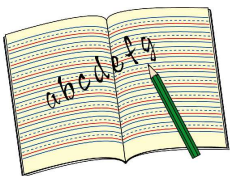
(5) 社会に出ると忙しくなります。数字や漢字、英語のスペリングなどを美しく、また、正確に書けるように練習を繰り返すことができるのは学校時代だけである人が多いので、「書き取り練習」ができる今のうちに、「書き取り練習」をたくさんしておきましょう。

(6) ただ、本音を言えば、私は中学生はもちろん、高校生、大学生、大学院生、もっと言えば社会人こそ「書き取り練習」が大切だと確信します。難しい学習や難しい仕事・活動をする人ほど難しいことばを身に着けなければならないのに、そのことばをただ見る・眺める・「理解」するだけで「音読練習」も「書き取り練習」もしないのでは、いつになっても身に着かないからです。「理解」しても「定着」させなければ、いつまでたっても知識はあやふやで、自分のものとして使いこなすことができません。

(7) 「ノート」や「メモ」を取るときに、「漢字」を知らない・英語の正確なスペリングがわからないというのでは困ります。徹底的な「書き取り練習」が求められます。



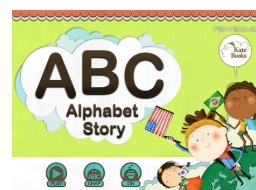
(8) 「英検」の「過去問集」やその「解答集」で一度やったものの中の英単語で書けないものはゼロにすること。「漢検」も一度やった問題に出ている漢字、つまり、問題本文、設問、選択肢、解答文の中にある漢字はすべて書けるまでにすること。これが、「英検」や「漢検」を活用した「学力アップ」の秘訣中の秘訣です。



(9)英語は、「ブロック体」でも「筆記体」でも美しく書けるようになるまで練習を繰り返すこと。

(10)英語の「筆記体」など必要ないという意見もありますが、英語でノートを取るときや大事な書類にサインをするときなどには、ブロック体では済まない場合があります。いつでも美しい筆記体を書けるよう練習だけはしておいてください。

(11)くせのある「筆記体」で書いたものを読まなければならないときに、ブロック体しか習っていないと読むことが難しいことがあります。



ab cdefg ABCDEFG

Q24 : 「定着のための3大練習」の第3番目の「計算・問題練習」とは何ですか。

A : (1)これは「計算」と「問題」の間に「・」印、つまり「ポチ」が入りますので、「計算・ポチ・問題練習」と読んでくださいね。

(2)「学校の教科書」「学校の副教材・プリント」「学校の問題集」「学校の授業中のノート」はもちろん、「開倫塾のテキスト」「開倫塾の副教材」「開倫塾の問題集」「定期試験」「実力テスト」「模擬試験」「英検」「漢検」「数学検定」「入学試験」などありとあらゆる教材の中の「計算問題」と「問題」を解き、なぜそのような答えになったのかという理由や経過が「うんなるほど」とよくわかった・よく「理解」できたものについては、「計算問題」や「問題文」を見た瞬間に正解がパッパッパッと条件反射で出てくるまで繰り返し何回も解く練習をすること。これが「定着のための3大練習」の3番目の「計算・問題練習」です。

(3)例えば、 5×3 という計算問題を見たら、その瞬間に15という答えが出るまでかけ算九九の練習をする。例えば、 $a + a = 2a$ 、 $(a + 9)(a - 9) = a^2 - 81$ とパッパッと答えが出るまでにする。



(4)例えば、「日本国憲法の3大原理は」という社会の問題が出たら、「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」とパッパッパッと答えられるようにすることです。

(5)もちろん、この前提として「日本国憲法」とは何か(「日本国」とは、「憲法」とはも)、「国民主権」とは何か(「国民」とは、「主権」とはも)、「基本

的人権の尊重」とは何か(「基本的人権」とは、「尊重」とはも)、「平和主義」とは何か(「平和」とは、「主義」とはも)などについて、「国語辞典」「用語集」「百科事典」「学年別参考書」などを用いて、「うんなるほど」とよく「理解」しておくことが大切です。よく「理解」した内容や問題について、問題を見た瞬間にパッパッパッと条件反射で正解が出るまでにする。これが大切です。

Q25 : 「学習の3段階理論」の「理解→定着」の次にくる、最後の「応用」とは何ですか。

A : 今までお話してきた「理解→定着」したことを用いて、次の3つを成し遂げることです。

(1) 「学校の定期試験」で100点満点を取る。単元テスト、実力テストでも100点満点を取る。このように「学校の試験で100点満点を取って学校の成績をよくすること」。

(2) 「英検」「漢検」「数学検定」などの「検定試験」や「国家試験」、「入学試験」などで合格点を取ること。

(3) 「理解」「定着」した内容を社会に出て、仕事や社会的な活動、毎日の生活に役立てることができること。

*以上の3つ、つまり「学校の試験で100点満点を取ることができる」、「学校以外の試験で合格点を取ることができる」、「社会で役立てることができる」、これが「応用」の内容です。

Q26 : 入学試験や検定試験、国家試験など、学校や学校以外の試験で100点満点や合格点を取るにはどうしたらよいのですか。

A : (1) 「過去に出題された問題」(「過去問^{かこもん}」と言います)を最低でも5年分以上手に入れ、同じ問題を5回以上解き直すことです。

(2) 間違えた問題は、問題番号のところに印をつけておくこと。



(3) なぜ間違えたのか原因をよく考え、「理解」不足なら「学校の教科書」や「学年別参考書」、「学校の授業中のノート」などをもう一度学び直し、「うんなるほど、これはこういうことだったのか」と「理解」に励む。

(4)間違えた原因が「理解」はしているが「定着」不足であるなら、「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」などを繰り返し、スミからスミまで正確に身に着ける。

(5)ケアレスミス、うっかりミスなら、次回は「気を付けて」解くこと。同じ間違いを繰り返さない。落ち着いて解く。

(6)このように、どのような手順やプロセスで間違えたか、その原因を自分の力で推定し、その対策を自分で考えて行う。これを「誤答分析^{ごとうぶんせき}」と私は名付けました。

(7)「過去問」5年分を用いた「誤答分析」を5回やり通すことが、「100点満点」「合格点」を取るコツです。



Q27:「社会で用いることができる」ようにするにはどうしたらよいですか。

A : (1)「学校の教科書」「学校の副教材・プリント」「学校の問題集」「学校の授業中のノート」、それに普段使っている「国語辞典」「漢和辞典」「英和辞典」「英英辞典」各教科の「用語集」「百科事典」などを、学校を卒業しても処分しないで一定の場所に保存し、10年に1回ずつでもO.K.ですから折に触れて「読み直す」ことです。

(2)特に「学校の教科書」と「学校の授業中のノート」、それに「辞書」と「用語集」だけは一生にわたって手元に置き、絶えず「学び続ける」こと。

(3)学校で学んだことはすべて次の上級学校で役に立つと同時に、社会に出ても役に立ちます。生涯、役に立ちます。どうか御自分の「一生の宝物」の一つとして大切にしてください。

Q28: 学力が高い人に共通していることは何だとお考えですか。

A : (1)3つあります。その第1は、「学習の仕方」を身に着けていることです。「理解」の仕方、「定着」の仕方、「応用」の仕方をよく身に着けている人が学力が高いと私は考えます。この3つの中で最も大切なのが、「定着」の仕方を身に着けることです。

(2)その第2は、「読書による思慮深さを身に着けていること」です。

①「読書」には、一語一語かみしめながら読む「精読」と、どんどん本を読む「速読」があります。

②では、一体どのくらい本を読めばよいのか。



③私が皆様に御提案したいのは、1か月に1冊ずつ「精読」すること、各長期の休みにも1冊ずつ「精読」すること、合計で1年間に15冊を「精読」することです。

④もう1つ御提案したいのは、毎週1冊、1年に50冊、どんどん本を読む「速読」を行うことです。

⑤年に15冊の「精読」と、年に50冊の「速読」で、合計で年に65冊となります。私は、学校にいる間はずっと精読用の本1冊と速読用の本1冊の合計2冊をカバンの中に入れて持ち歩き、1年間に65冊を目標に読書をお進めになることを御提案します。

* 10年で650冊、30年で2000冊の読書を御提案します。

⑥そして、本を読んでいて気に入った「文章」や「語句」(ことば)に出会ったら、「書き抜き読書ノート」に書き写す。そして、その「書き抜き読書ノート」をいつも1ページ目から繰り返し読み直し、自分のもの、自分の血や肉にすることです。そうすることにより、「深く考える力」や「思慮深さ」が少しずつ生まれると思います。

(3)その第3は、「新聞を毎日読むことにより自分で考える力、批判的思考能力を身に着けていること」です。

①新聞は「社会の番犬(watch dog ウォッチ・ドッグ)」と言えます。



②地域や日本、世界など社会の中で毎日起こっている出来事の中で、新聞社が、これは社会の将来のために取り上げておいたほうがよいと考えることを記事として新聞読者に伝えるのが新聞です。

③これからの社会の課題を考える手がかりを与えてくれるのが新聞です。

④新聞を読むと様々な情報や知識、教養も得ることができます。

⑤「新聞は社会の公器(こうき)」「新聞は文化そのもの」と呼ばれるのは、このような理由からです。

⑥ですから、たとえ 5 分、10 分でもよいですから、是非、新聞を毎日読み、世の中は果たしてこれでよいのかを「自分で考える力」、「批判的思考能力」を身に付けてください。

⑦新聞を読んでいて気になった記事は、保護者の皆様の許可を得てハサミで切り抜き、のりでノートに貼りつけ、自分の意見も書き込んで「スクラップブック」をお作りになることをお勧めします。



Q29 : 学力が身に着くと人生はどうなりますか。社会はどうなりますか。

A : (1) 学力が身に着けば身に着くほど、皆様は「多様な選択肢のある人生」を歩むことができます。

(2) 学力が身に着いた人が多ければ多いほど、「正常に機能する社会」、「持続可能な社会」を形成することができます。

(3) 何のために学ぶのか、学ぶことは自分の人生や社会の発展のためにどのような意味があるのかを、ゆっくりでよいですから、是非、自分の力でお考えくださいね。

Q30 : 最後に質問です。学力とは何だとお考えですか。

A : (1) 「学力」とは「学ぶ力」。「自らすすんで学ぶ力」、「自己学習能力」が「学力」だと私は考えます。

(2) 学校の試験でよい点数を取ってよい成績を取ること、難しい学校の入学試験に合格することは、「自らすすんで学ぶ力」が身に着いた一つの結果です。

(3) ではどのようにして「学力」、つまり「自らすすんで学ぶ力」、「自己学習能力」を身に着けたらよいか。その一つの方法が、この「2014 年夏一効果の上がる学習方法とは一」です。是非、何回もお読み返しいただき、「自らすすんで学ぶ力」、「自己学習能力」の育成にお励みいただきたいと希望します。

*ちなみに「自ら主体的に学習に取り組むこと」、すなわち「自己学習能力」の育成は我が国の教育目標の一つであり、開倫塾の教育目標の一つでもあります。

—おわりに—

長い文章を最後までお読み頂き、有難うございました。参考になると思われることがあれば、今日からでも実行に移してください。私の願いは、皆様の「成功の実現」、つまり、皆様お一人お一人が「よく生きる」ことです。

感謝

